

事例 10 奈良県天理市 ～学生の支援を得た期日前投票所の設置～

- 市の面積 : 86.4 km²
- 市の人口 : 67,398 人 (H27 年国勢調査)
- 選挙人名簿登録者数 : 54,624 人 (H28 参 (選挙時登録))
- 投票所数 : 31 箇所
- 期日前投票所数 : 2 箇所 (公共施設、大学)
- 直近選挙の投票率 : 52.02% (H28 参) 46.71% (H27 知事) 46.65% (H27 県議)
52.07% (H27 市議) 51.14% (H26 衆)
- 18、19 歳の投票率 : 18 歳 : 54.92%、19 歳 : 38.66% (H28 参)

取組に至る経緯

選挙管理委員会では、従前から若者の低投票率に問題意識を持っていた。平成27年度に、選挙権年齢の引き下げが決まり、大学のすべての学年が選挙権の対象となったことを踏まえ、地元の天理大学に対し、期日前投票所の設置の協力依頼を行う良い機会ではないかと考えていた。期日前投票所の設置については、大学だけでなく商業施設や駅前も検討を行ったが、投票スペースの確保等の課題があり、実施は困難な状況であった。

なお、市では、平成26年に天理大学との間で、地域社会の発展を目的とした「包括的連携に関する協定」(巻末の参考資料参照)を締結しており、最終的に、その一環として、市の総合政策課(協定の担当課)とも連携しながら協議を進め、天理大学への期日前投票所の設置を決めた。

期日前投票所の設置に向けた経緯や若年層に対する主な啓発の取組は、次のとおりである。

実施時期	取組内容
平成 28 年 2 月 19 日	期日前投票所の候補場所の視察と大学側との意見交換を行う
2 月下旬	大学生等の若者の利用が見込まれる市内カットハウスに対し、18歳選挙権の啓発ポスター掲示依頼
3 月 2 日	選挙管理委員会において若者の投票率の向上を目的に、天理大学に期日前投票所の設置を検討する方針を決める
3 月 15 日	再度、設置候補場所、開催時間、啓発活動等について打ち合わせを行う
4 月 26 日	天理大学において実際に市内で取組みが行われている活性化プロジェクトを題材に模擬投票を実施
5 月 6 日	天理高校第2部への出前事業を実施(奈良県・天理市)
5 月 25 日	天理大学の学生自治総会にて期日前投票制度などについて説明し、学生の投票意識や住民票の異動に関するアンケートを実施
6 月 13 日	天理高校に対し、生徒の期日前投票の依頼を行う
6 月 23 日 ～7 月 10 日	天理大学生による「カウントダウン 18 フォト」を市ホームページで実施。
6 月 30 日～ 7 月 1 日	天理大学での期日前投票を実施。
7 月 10 日	セスナ機を使用し、上空から、若者の投票参加の呼びかけを実施



「カウントダウン 18 フォト」



カットハウスでの啓発ポスター

取組内容

大学側との調整の結果、設置期間と場所については、以下とした。

○期間：6月30日（木）及び7月1日（金）の10：00～17：00

○場所：ふるさと会館（大学構内の本庁舎近く）（図1）

具体的には、①大学生が多く集まりそうな日、②期日前投票期間の早い段階ではあまり選挙に対する理解が深まっていない、③授業時間や投票所として利用する施設の空き状況などの観点での大学側からの助言も踏まえて決定した。

○周知方法

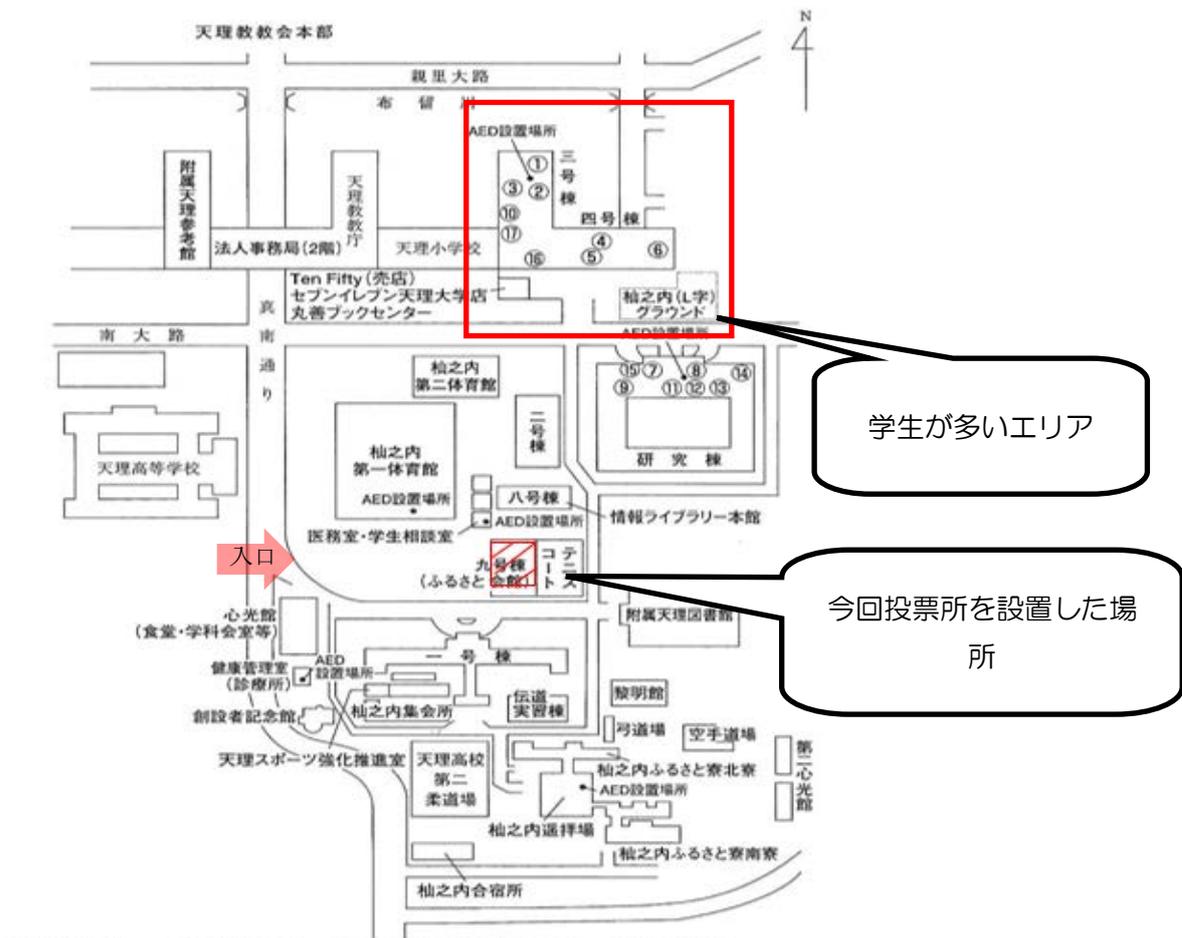
学生への周知は、主にキャンパス内でのポスター掲示とチラシ配布を行った。また、周辺住民にも、選挙通知書に周知文書を同封の上、送付した。

また、天理大学の学生を投票立会人や事務従事者へ起用するため、大学の学生支援課の掲示板等を利用し、アルバイトの募集を行った。実際に、事務従事者7名のうち2名の学生が2日間、投票用紙の交付などの事務に従事した。

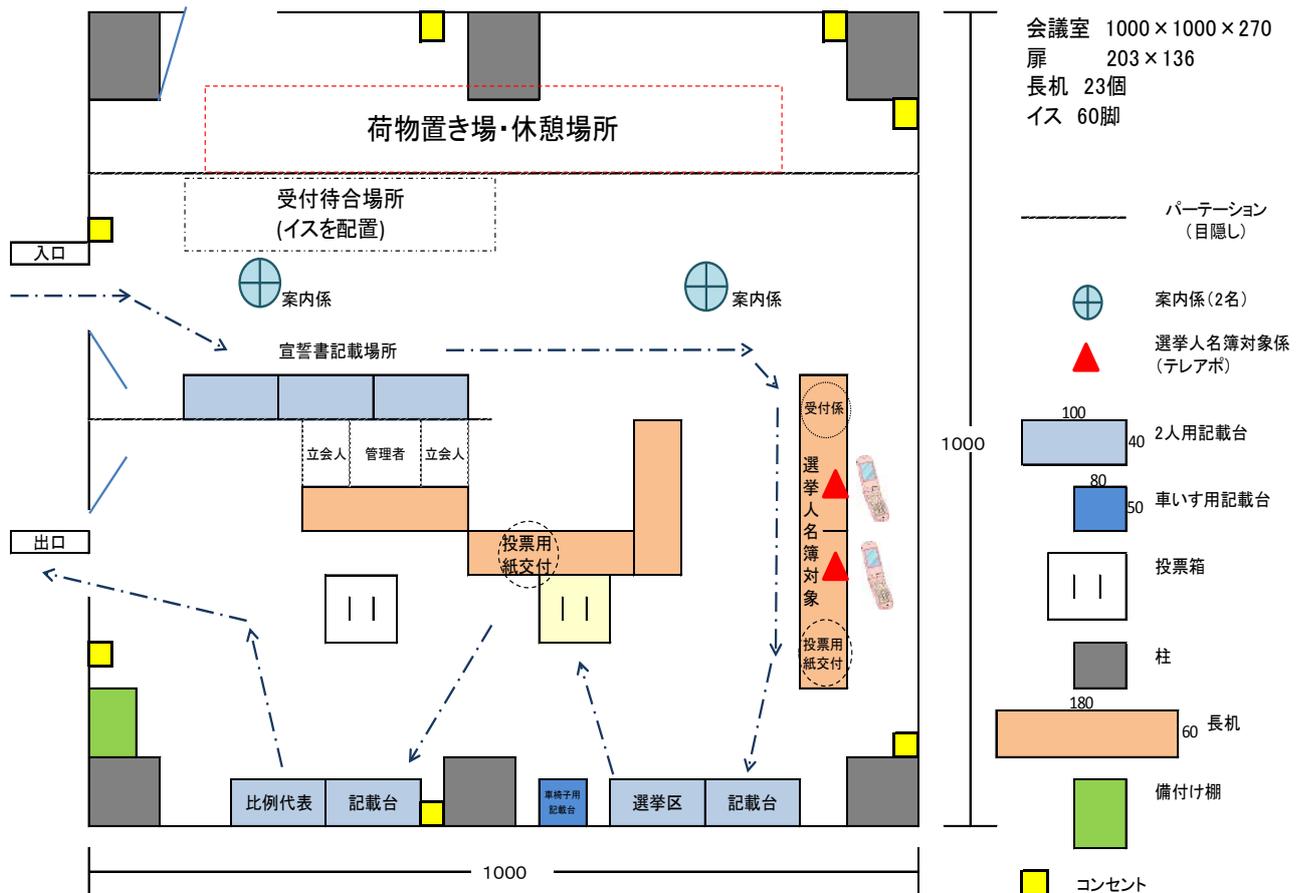
○実施経費：1,051千円（主な内訳は以下のとおり）

- ・人件費（期日前投票管理者及び立会人等の報酬、雇用職員賃金）：102千円
- ・委託料（期日前投票所設置・撤去委託費、警備業務等）：897千円
- ・会場借り上げ料：15千円
- ・通信運搬費（携帯電話使用料）：37千円

【図1：大学構内図】



【図2：期日前投票所のレイアウト】



参考にした団体

すでに先行して大学への期日前投票所を設置していた松山市、豊中市、山口市、鹿児島市、青森市、広島市、大府市と多くの団体を参考にした。その中でも、選挙人名簿のオンライン対照システムが整備されていない中でいかに二重投票の防止を図るかといった点については、松山市作成の事務マニュアル等を参考に、天理市版のマニュアルを作成した。

また、周知啓発の面では、大学での期日前投票を実施している団体をインターネット等で調べている中で、青森中央学院に設置された期日前投票所で使用されている啓発ポスターのデザインが、選挙の投票所であることを分かりやすく表現したデザインであったため、青森市選挙管理委員会に確認し、ポスターのデザインは学生団体「CreateFuture 山梨」が作成したことがさらに確認できたため、代表者にコンタクトを取り、使用の許可を得た。

(天理市版のマニュアルについては、巻末の参考資料参照)

考慮した点・気を付けている点

期日前投票期間中は、excel により作成したバーコード読取式の簡易の名簿受付システムを準備したが、1日目の午前中は、万一システムの不備が発生した際に迅速に対応できるよう情報担当職員を配置するとともに、両日とも事務執行上の問題に対応するため選管職員を配置した。特にオンライン化された照会システムがなく、期日前投票所の名簿受付係と選管本部の登録係との連絡は電話となったため、会話の内容を必要最小限のものとし、バーコードの利用などコード化した情報でしかやりとりしないとといった対応をとるなど個人情報の漏えいに配慮した。

また、期日前投票所の運営に関しては、初めて投票所に来る学生を想定し「こんにちは」、「こちらです」といった案内もにこやかに明るく対応し、学生が緊張せず投票できる環境づくりに努めた。

取組の実績・効果

○投票率

市全体：52.01%（H25 参院選に比べ 3.51 ポイント上昇）

18歳：54.92%、19歳：38.66%

○大学での投票者数：158人

内訳は、大学生が44人で高校生が42人（大学での投票者数の54.43%）

当初の予想より大学生の利用が少ない印象であるが、逆に近隣住民や大学関係者の利用が予想よりも多い結果となった。

また、2日目の7月1日には、大学にメール登録をしている学生に対し、期日前投票を実施している旨の案内を送付したところ、当日の投票者数が前日よりも増加したこともあり、今後はもう少し早い段階でメールによる周知を行うことが効果的ではないかと考えている。

（大学生44名の内訳：6月30日：12人、7月1日：32人）

工夫した点

期日前投票所の設置・運営にあたっては、特に、マスコミに取り上げてもらい周知効果を上げられるよう工夫した。例えば、学内投票所への案内看板や啓発ポスターのデザインには学生団体「CreateFuture 山梨」が作成したものを使用することで、全体的に統一感を出し、インパクトを与えるようにした。実際に、取材に来た記者の多くがこの看板や啓発ポスターを写真撮影し、記事と併せて掲載するなど、住民への啓発にもつながったものと考えている。



統一したデザインの看板

そして、今回は、天理大学の近隣にある天理高校の学生に対しても、期日前投票の呼びかけを行った。高校側で、選挙権の対象となる生徒に対し、期日前投票の希望者を募ってもらい、放課後に天理大学で期日前投票所を行った。部活単位での集団による投票参加も見受けられ、18歳の投票率にも一定の効果があつたものと考えている。



高校生による期日前投票の様子

今後の課題

①設置場所の検討（図1）

今回の設置場所は、投票所の環境としては静穏保持や一定のスペース確保という点では適していたと考えているが、普段学生が授業等で集まるエリアからは少し離れていたため、学生の利用しやすさといった点では改善の余地があるかもしれない。

一方で、近隣住民の利用を考えると、学生が多い教室棟よりも今回設置したエリアの方がアクセスしやすい環境にあったということも考えられ、今後の設置場所は引き続き検討していきたい。

②名簿対照方法

今回は、個人情報にも配慮しながら電話による名簿対照を行ったが、利用者が増加した場合を想定すると、専用回線を引くなどオンラインによる名簿対照ができないか検討が必要である。

③大学側との調整

参院選に向け、比較的日程に余裕がある中での調整であったが、急な解散時の投票場所の確保や大学での授業と重なった際の投票時間の確保など、今後調整が困難となる場合も想定される。